

# 岸井成格さん “壊憲” 状況を語る

「2020年に改正憲法を施行」「9条1項2項はそのまま3項に“自衛隊”を明示する」とはっきりと宣言した安倍首相。改憲を突きつけられた状況下での5/3の憲法記念日。岸井さんの講演会がありました。メディア、ジャーナリストの立場から“平和憲法”“報道の自由・言論の自由”の危機的状況について語られました。

北朝鮮と米国との緊張関係の中で、日本の自衛隊が安保法制・新ガイドラインの実施である“米艦の防護”“米軍との共同訓練”を行う事の危険性を指摘。これらの行為は憲法9条の“武力による威嚇”其の物であると語りました。

BBCやワシントンポストは「日本ではテロの脅威を訴えれば、北朝鮮の脅威を訴えれば何でも通せる政治状況」「メディアへの政権の介入は異常事態だ」「メディアは政府にひれ伏している」と分析しているとのこと。

安倍首相は改憲へのロードマップの“歴史的第一歩を踏み出した”と言ってはばからない。安倍政権は特定秘密保護法・閣議決定・安保法制を作り出して主権在民・平和主義・立憲主義・民主主義と言った憲法の原則をすべて破壊していると批判。

又、岸井さんは政権としてはかなり末期的症状なのに支持率が50~60%と高支持の理由として“言葉の置き換えが巧み”“執拗に、巧妙に圧力を加えゆさぶりと分断”を造り出していると分析しました。

例えば安保法制（戦争法）を“積極的平和主義・平和安全法制”と、武器を“防衛装備”と、武力による脅威を“抑止力”と言いかえることで危険性を隠している。

マスメディアの株主総会で声高に「反日番組を造るとは何だ」と言い、「反日報道の新聞社へは、経済界からの広告を出させないようにしよう」と言ってマスコミ・ジャーナリズムの世界に、労働組合に執拗に圧力を加えて付度させその領域を真っ二つに分断させゆさぶりをかけている。



最後に、改憲へ大きく歩み出している安倍政治の戦後レジウムからの脱却の内実は①押し付け憲法を自主憲法に②日教組の教育を教育勅語の教育へ③労働組合の体制内化④メディアへのコントロールであると指摘しました。

そして“権力は必ず腐敗する。暴走する”の戦後の反省の原点から今日の状況を見るなら、「安倍政権の腐敗と暴走はすでに始まっている」と厳しく訴えました。

私たち一人一人が早急に、戦後＝敗戦の原点に立ち、平和主義を根源的にとらえ返す作業をすることが問われているのでしょうか。多くの人々の命を奪った戦争はやめるべきなのか形を変えればいいのか？自衛隊は軍隊か？抑止力なら軍事力を持ってもいいのか？良心的兵役拒否・良心的軍事拒否国家を核心とできるのか？解放された自由な青空と戦争のない平和主義国家を目指したはず。

壊憲状況の中から今こそ日本国憲法を再生させましょう！